

令和4年度採用

群馬県公立高等学校教員選考試験問題

保健体育

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

注意事項

- 1 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから4ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と番号順に重ねた解答用紙を机の上に置いてください。
- 5 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 6 この問題用紙は、持ち帰ってください。

- 1 次の文は、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）の教科「保健体育」の「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」の一部である。後の(1)～(5)の問いに答えなさい。

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の a 主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、その合理的、計画的な解決のための活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを深く味わったり、(①) の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。
- (2) (略)
- (3) 「体育」は、各年次継続して履修できるようにし、各年次の単位数はなるべく (②) して配当すること。なお、内容の「A体づくり運動」に対する授業時数については、各年次で (③) ～ (④) 単位時間程度を、内容の「H体育理論」に対する授業時数については、各年次で (⑤) 単位時間以上を配当するとともに、内容の「B器械運動」から「Gダンス」までの領域に対する授業時数の配当については、その内容の習熟を図ることができるよう考慮すること。
- (4) 「保健」は、 b 原則として入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修させること。
- (5) c 義務教育段階との接続を重視し、中学校保健体育科との関連に留意すること。
- (6) d 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

- (1) 文中の (①) ～ (⑤) に当てはまる語句や数字を答えよ。
- (2) 下線部 a について、科目「体育」における「主体的な学び」と「対話的な学び」とはどのようなことか、それぞれ答えよ。
- (3) 下線部 b について、科目「保健」は原則として入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修させることとしているのはなぜか、答えよ。
- (4) 下線部 c について、科目「体育」では、中学校第3学年からは、生徒が領域を選択して履修できることとしているため、高等学校入学年次以降は、領域の学習経験に違いが生じる場合も考えられる。この課題に対して、各年次の単元計画を検討する際にはどのような工夫が考えられるか、答えよ。
- (5) 下線部 d について、以下の①～④に示した場合において、運動に関する領域の指導としてどのような工夫が考えられるか、答えよ。
- ① 見えにくさのため活動に制限がある場合
 - ② グループでの準備や役割分担が難しい場合
 - ③ 自分の力をコントロールすることが難しい場合
 - ④ 身体の動きに制約があり、活動に制限がある場合

- 2 領域「球技」について、(1)～(5)の問いに答えなさい。

- (1) 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）の教科「保健体育」の「3 内容の取扱い」において、領域「球技」の3つの型を、入学年次及び入学年次の次の年次以降でそれぞれどのように履修できるようにすることとしているか、答えよ。

- (2) ゴール型の授業で移動式のサッカーゴールやバスケットボールゴール等を使用する際に、器具の転倒による事故が発生しないよう、どのような配慮が必要であるか答えよ。
- (3) 次の①、②は、授業における技能面での生徒のつまずきの例である。生徒のつまずきを解消するための具体的な指導方法（練習方法）を答えよ。
- ① ソフトボールで、ゴロは捕球できるが、フライを捕球することができない。
- ② バレーボールの試合において、1本目のレシーブは上がるが、2本目のトスが上がりず、三段攻撃が成立しない。
- (4) 次の文は、高等学校学習指導要領解説「保健体育編・体育編」（平成30年7月）で示されている入学年次の「技能」における、ボールや用具の操作の例示である。後の①～④の下線部については、入学年次の次の年次以降ではどのようなになるか、答えよ。
- ① サービスでは、ボールをねらった場所に打つこと。（ネット型）
- ② 味方が操作しやすいパスを送ること。（ゴール型）
- ③ 身体の軸を安定させてバットを振りぬくこと。（ベースボール型）
- ④ ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。（ネット型）
- (5) 次の①～③の文中の（ア）～（ウ）に当てはまる語句を答えよ。
- ① バスケットボールの試合中に、攻撃側のチームの選手が一度フロントコートに入ってボールを持った後に、再びドリブルでバックコートに戻ったり、バックコートにいる味方の選手にパスをしたりするなどして、バックコートでボールに触れてしまう反則を（ア）という。
- ② ソフトボールでは、投手の手から球が離れるまで、ランナーの（イ）は禁止されている。
- ③ 卓球のダブルスにおいて、ラリーは、ペアで（ウ）に打たなければならない。

3 科目「保健」について、(1)～(3)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）で示されている科目「保健」の目標である。後の①、②の問いに答えよ。

保健の（ア）を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 個人及び（イ）における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。

(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて（ウ）を養う。

(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える（エ）づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

- ① 文中の（ア）～（エ）に当てはまる語句を答えよ。
- ② 下線部について、科目「保健」において身に付けるようにする技能とは何か、答えよ。
- (2) 次の①～③の指導方法について説明せよ。また、①について、授業で具体的にどのように活用することが考えられるか、答えよ。
- ① ロールプレイング ② ケーススタディ ③ フィールドワーク

(3) 次の表は、「生活習慣病などの予防と回復」における「がんの予防」の授業の展開例の一部である。後の①～⑤の問いに答えよ。

時間	学習内容・学習活動	教師の支援、留意点等
導入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習について説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの振り返りと本時の学習課題について説明する。 <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 15px; margin: 5px auto; text-align: center;">a</div>
展開	<ul style="list-style-type: none"> b <u>がんの種類や原因</u>などを調べる。 がん検診の目的や早期発見の重要性について、ブレインストーミングを行う。 がん検診受診率が向上するための方策についてグループで考え、発表する。 他のグループの発表を聞き、ワークシートに自分の考えを記入する。 がんの予防と回復における、個人の取組と社会的な対策について整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> c <u>ブレインストーミングを行う際のルール</u>を説明する。 d <u>早期発見の重要性を考えさせる資料</u>を提示する。 日本のがん検診受診率について資料をもとに説明する。 他のグループの発表を聞いて、自分の考えがどのように変化したか記入するよう助言する。 資料をもとにe <u>緩和ケア</u>について説明する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、自分の考えをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を振り返らせ、理解したことを確認させる。

① 空欄 a は、家族や身近な人ががんの治療中又はがんで亡くなった人がいる生徒に対する配慮として生徒に伝える内容である。a に当てはまる留意点等を書け。

② 下線部 b について、以下の表はがんの種類や特徴、主な原因についてまとめたものである。(ア)～(エ)に当てはまる語句を答えよ。

種類	特徴など	主な原因
(ア)	日本人の死亡数が最も多い(2019年)がんで、特に男性に多い。転移しやすいため治療が難しい。	喫煙
胃がん	胃の粘膜内の細胞ががん化することで発生すると考えられている。(イ)の感染が発病にかかわる。	喫煙、塩分過多 (イ)
子宮頸がん	子宮の入口付近(頸部)にできるがんで、進行すると不正出血が現れる。	(ウ)ウイルス
(エ)	血液のがんで、病気の進行パターン等から急性と慢性に分類される。小児がんの約4割を占める。	多くは原因不明

- ③ 下線部 c について、ブレインストーミングが円滑に行われるためにどのようなルールが必要か、3つ答えよ。
- ④ 下線部 d について、がんの早期発見の重要性を考えさせるためにはどのような資料を提示すればよいか、答えよ。
- ⑤ 下線部 e について、緩和ケアとはどのようなものか、説明せよ。

4 次の文は、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）の教科「保健体育」科目「体育」領域「体づくり運動」について述べられたものである。後の(1)～(5)の問いに答えなさい。

体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てること。
 - ア 体ほぐしの運動では、a 手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と主体的に関わり合うこと。
 - イ b 実生活に生かす運動の計画では、自己のねらいに応じて、c 健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組むこと。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、d 一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保すること。

- (1) 下線部 a について、学習指導要領で示されている「手軽な運動」とは、どのような運動か、2つ答えよ。
- (2) 下線部 b について、高等学校学習指導要領解説「保健体育編・体育編」（平成30年7月）で示されている、入学年次の次の年次以降の「実生活に生かす運動の計画の行い方の例」の一つとして、「自己のねらいに応じた実生活に生かす運動の計画と実践」がある。その中で示されている「調和のとれた体力を高めること」を自己のねらいとしたときに、生徒がどのように取り組むことが望ましいか答えよ。
- (3) 下線部 c について、入学年次においては、4つのねらいの運動を組み合わせて計画を立てて取り組むこととしている。この4つのねらいの運動のうち、「体の柔らかさ」以外の3つを全て答えよ。また、計画を立てる際にはどのような点に配慮する必要があるか、答えよ。
- (4) 入学年次の次の年次以降において、下線部 d のような態度を身に付けることは、社会的視点において、将来的にどのようなことにつながるか、答えよ。
- (5) 領域「体づくり運動」の授業において、生徒がねらいに応じた運動の計画を立案等する際に、運動時間が少なくならないようにするためにはどのような工夫が考えられるか、答えよ。

科目	保健体育解答用紙	2枚中の1	受験番号		氏名	
----	----------	-------	------	--	----	--

(4年)

1

(1)	①		②		③		④		⑤	
(2)	<p>(主体的な学び)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>(対話的な学び)</p>									
(3)										
(4)										
(5)	①									
	②									
	③									
	④									

2

(1)	(入学年次)									
	(入学年次の次の年次以降)									
(2)										
(3)	①									
	②									
(4)	①	入学年次) ボールを狙った場所に	→	(入学年次の次の年次以降)						
	②	入学年次) 味方が操作しやすい	→	(入学年次の次の年次以降)						
	③	入学年次) 身体の軸を安定させて	→	(入学年次の次の年次以降)						
	④	入学年次) 空いた場所やねらった場所に	→	(入学年次の次の年次以降)						
(5)	ア		イ		ウ					

科目	保健体育解答用紙	2枚中の2	受験番号		氏名	
----	----------	-------	------	--	----	--

(4年)

3

(1)	①	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
	②				
(2)	①	(指導方法の説明)			
		(活用例)			
	②	(指導方法の説明)			
	③	(指導方法の説明)			
(3)	①				
	②	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
	③				
	④				
	⑤				

4

(1)			
(2)			
(3)	(ねらい)	(ねらい)	(ねらい)
	(配慮)		
(4)			
(5)			

以下はあくまでも解答の一例です。

科目	保健体育解答用紙	2枚中の1	受験番号		氏名	
----	----------	-------	------	--	----	--

(4年)

1

(1)	①	健康	②	均分	③	7	④	10	⑤	6 各3点
(2)	<p>(主体的な学び) 運動の楽しさを発見し、運動についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、学習を振り返るとともにそれを考察し、課題を修正したり新たな課題を設定したりする学びの過程のこと。 4点</p> <p>(対話的な学び) 運動についての課題の解決に向けて、生徒が他者との対話を通して、自己の思考を広げ深め、課題の解決を目指して学習に取り組むなどの学びの過程のこと。 4点</p>									
(3)	<p>できるだけ長い期間継続して学習し、健康や安全についての興味・関心や意欲を持続させ、生涯にわたって健康で安全な生活を送るための基礎となるよう配慮したため。 4点</p>									
(4)	<p>学習経験の違いなどの生徒の実態を把握するための機会を一定期間確保した上で、必修科目の内容を学習させる。 など 4点</p>									
(5)	①	不安を軽減したり安全に実施したりすることができるよう、活動場所や動きを事前に確認したり、仲間同士で声を掛け合う方法を事前に決めたり、音が出る器具を使用したりする。 など 4点								4点
	②	準備の必要性やチームで果たす役割の意味について理解することができるよう、準備や役割分担の視覚的な明示や生徒の実情に応じて取り組むことのできる役割から段階的に取り組ませる。 など 4点								4点
	③	状況に応じて力のコントロールができるよう、力の出し方を視覚化したり、力の入れ方を数値化したりする。 など 4点								4点
	④	生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるよう、用具やルールの工夫を行ったり、それらの変更について仲間と話し合う活動を行ったり、必要に応じて補助用具の活用を図ったりする。 など 4点								4点

2

(1)	(入学年次) 3つの型の中から2つの型を選択して履修できるようにする。 4点									
	(入学年次の次の年次以降) 3つの型の中から1つの型を選択して履修できるようにする。 4点									
(2)	杭等により固定したり、十分な重さと数の砂袋等で安定させたりする。 など 4点									
(3)	①	近い距離から頭上に投げられたボールをグローブに当てるように練習する。 など 4点								4点
	②	2本目は、キャッチして投げ上げてトスにしてもよいこととして試合をする。 など 4点								4点
(4)	①	(入学年次) ボールをねらった場所に	→	(入学年次の次の年次以降) ボールに変化をつけて など	4点					
	②	(入学年次) 味方が操作しやすい	→	(入学年次の次の年次以降) 味方が作り出した空間に など	4点					
	③	(入学年次) 身体の軸を安定させて	→	(入学年次の次の年次以降) 身体全体を使って など	4点					
	④	(入学年次) 空いた場所やねらった場所に	→	(入学年次の次の年次以降) 守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて など	4点					
(5)	ア	バックコートバイオレーション (バックパス)	イ	リード (離塁)	ウ	交互 各4点				

科目	保健体育解答用紙	2枚中の2	受験番号		氏名	
----	----------	-------	------	--	----	--

(4年)

3

(1)	①	(ア) 見方・考え方	(イ) 社会生活	(ウ) 他者に伝える力	(エ) 環境	各2点	
	②	応急手当					4点
(2)	①	(指導方法の説明) 特定の役割を演じたり、他者の演技を観察、評価したりすることにより、役割に応じた対応の仕方を理解し、習得する。 など					4点
		(活用例) 飲酒を勧められた際の対処法を考える場面 など					4点
	②	(指導方法の説明) 特定の事例などについて、登場人物の気持ち、考え、行動、それらの背景要因等を明らかにするため、日常生活で起こりそうな場面について、考えたり話し合ったりする。 など					4点
(3)	③	(指導方法の説明) 特定の課題などの実態や関連情報を得るため、現地に赴き観察、測定などをしたり、関係者に調査やインタビューなどを行ったりする。 など					4点
	①	気分が悪くなったり、その場にいることがつらくなった場合は遠慮なく申し出るように伝える など					4点
	②	(ア) 肺がん	(イ) ピロリ菌				各4点
		(ウ) ヒトパピローマ	(エ) 白血病				
	③	他の生徒の意見を批判しない。					各4点
なるべく多く意見を出す。							
④	他の生徒の意見に便乗してもよい。 など					4点	
⑤	ステージ別の5年生存率 など					4点	
⑤	がん等の生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、身体的・精神的な苦痛をやわらげるためのケア。 など					4点	

4

(1)	誰もが簡単に取り組むことができる運動	仲間と協力して楽しくできる運動	など	各4点			
(2)	体力測定の結果などを参考に、定期的に運動の計画を見直して取り組む。 など				4点		
(3)	(ねらい)	巧みな動き	(ねらい)	力強い動き	(ねらい)	動きを持続する能力	各4点
	(配慮)	一部の能力のみの向上を図るのではなく、総合的に体の動きを高めることで調和のとれた体力の向上が図られるよう配慮する。 など					4点
(4)	スポーツに参加しやすい環境を作ることにつながる。 スポーツを通じた共生社会の実現につながる。 など					4点	
(5)	授業の導入時に一定時間、体ほぐしの運動を行う。 ICT機器を活用して参考動画を基に実践しながら計画を立案させる。 など					5点	